

《中学生の部》
佳作（警察庁交通局長賞）

富山県高岡市立牧野中学校
1年 岡 志織

交通事故から学んだこと

その日は、とても寒い日でした。いつも通っている大きな道で、右折の信号が青になるのを待っていました。青になったので母の運転する車がゆっくり曲がり始めました。そのとき、対向車が全く止まる気配もない様子で直進してきました。私と母の前にあるエアバックが飛び出すほどの、大きな衝撃がありました。

突然の出来事に、私も姉も何が起きたか分からなかったほどでした。この事故のせいで大きな道は一時通行止めになりました。寒い中で震えながらレッカー車が来るのを待ったり、警察の方と話をしたりしました。相手の方も、とても動搖しているようでした。

私は、毎朝、祖父母の家がある高岡市まで車で通っています。私の住む富山市から、車で四十分かかります。この生活は、姉が保育園に通い始めてから続いているので、今年で十五年になります。車を運転している母は、子供を乗せていることもあるので、安全にとても気を付けています。それでも、大きな事故にあってしまったのです。

母がいつも安全運転をしてくれるので、私も姉も安心して過ごしていました。おしゃべりをしたり、時には眠ったり……。自分たちが事故にあうなんて、考えたこともありませんでした。でも、事故は起こったのです。私は、事故はいつ起こるか本当に分からないものだということを強く感じました。

今回の事故は、すべて相手の運転が原因で起こったことでした。けがもたいしたことはありませんでした。それでも、母は、

「大きなかがや、命を落とすようなことにならなくて、よかった……。」
と、今まで見たことがないくらいひどく落ち込んでいた顔が心に残っています。

今回は、被害者という立場でしたが、事故の加害者にもなる可能性があることを忘れてはいけません。相手の方は、二十代の女性の看護師でした。その日は、少し急いでいて信号が赤に変わったことに気付かずに、交差点に入ってしまったそうです。私たちから見てもかわいそうになるくらいつらそうで今にも泣きだしそうな表情でした。そんな状態で警察の人や会社の人と話をしていました。何日かたってから、相手の女性は家族と一緒に私たちの家まで謝りに来られました。その後、母たちと話をしました。母は、

「今回は被害者だったけど、加害者にもなりうるよね。自転車に乗っていれば中学生も

加害者になることもあるよ。気を付けようね。」

と言いました。

交通事故は、本当に他人事ではないということを肝に銘じたいと思います。歩いているときも、自転車に乗るときも、気を付けようと思います。交通事故などという怖い目に二度とあいたくありません。あの事故と事故から学んだことを忘れないでいきたいです。